

第 19 回滋賀県がん診療連携協議会 地域連携部会 議事概要

日 時：平成 27 年（2015 年）7 月 10 日（金） 14:00～15:40

場 所：大津赤十字病院 小講堂

出席者：別紙出欠表参照

1. 平成 27 年度 地域連携部会年間計画について

【別紙：滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシート 参照】

平成 27 年度のアクションプランとして、「地域連携パスの活用 270 件／年」、「地域連携パスの見直し」、「パス運用マニュアルの見直し」を計画している。

月別の予定は、月 1 回は WG または部会を開催予定である。

2. 滋賀県地域連携クリニカルパスについて【資料 1 参照】

◎登録状況について

平成 27 年 6 月 30 日現在の登録状況について、事務局より報告した。

全体の運用件数は 1,009 件であった。がん診療連携拠点病院では、大津赤十字病院が 128 件、滋賀県立成人病センターが 156 件、市立長浜病院が 146 件、彦根市立病院が 49 件、公立甲賀病院が 14 件、滋賀医科大学医学部附属病院が 150 件であった。がん診療連携支援病院では、大津市民病院が 44 件、草津総合病院が 5 件、済生会滋賀県病院が 29 件、長浜赤十字病院が 206 件、近江八幡総合医療センターが 64 件、東近江総合医療センターが 18 件であった。

また、部位別では、胃がんが 383 件（早期 337 件・進行期 46 件）、大腸がんが 496 件（早期 412 件、進行期 84 件）、肺がんが 17 件（化学療法有 9 件・化学療法無 8 件）、肝がんが 4 件（内科 4 件・外科 0 件）、乳腺がんが 38 件、前立腺がんが 43 件、緩和ケアが 28 件（連携有 28 件・連携無 2 件）の運用であった。

年度別の推移では、2010 年度 63 件、2011 年度 132 件、2012 年度 255 件と 2010 年度から 2012 年度までは年々倍増していったが、2012 年度以降は横ばいとなっている。がん腫別に見ると、件数が倍増していった 2012 年度以降、件数の大半を占める“胃”と“大腸”が僅かながら減少傾向にあり、その減少分を“前立腺”、“緩和”が補っている。

3. 5 大がん地域連携パスに関する連携医療機関向けアンケート結果について【資料 1-2 参照】

昨年度末 2 月に実施した、5 大がん地域連携パスを使用している計画策定病院以外の県内全ての連携医療機関（診療所等）を対象としたアンケートの結果報告。

対象医療機関は 270 件で回答を得られたのは 151 件（56%）。パスを使用した患者単位では 833 人中、426 人分（51%）の回答を得た。

「使い易さ」の質問項目は、“使い易い”、“やや使い易い”、“普通”が76%、「役立ち」の質問項目は“役立っている”、“やや役立っている”、“普通”が75%を占めている。

しかし、「使い易さ」項目での“普通”が46%を占めていることについては、連携医療機関側のパスについての理解が乏しく、特に何も思っていないことが表れているとの評価もできる。

「サイズ」については、現行の“A4”サイズが大きすぎると作成作業部会で議論がされていたが、アンケート結果では、現行サイズが適当との回答が80%であった。しかし、今回のアンケートは医療者側を対象としているが、サイズの問題は、実際に持ち運びする患者さん若しくは家族を対象に質問しなければならない。また、当部会員からもA4サイズでは持ち運び不便なので、作業部会にて再検討の依頼があった。

「現行パスの問題点・要望等」の質問項目については、パスのページ数、診療計画内容やパスそのものの存在や有益性に対する意見等の厳しいものが多数あった。

4. 「がん治療連携計画策定料」施設基準県下一括届出状況について【資料2参照】

2012年6月より開始した「がん治療連携計画策定料」の施設基準県下一括届出を今年度も行った。今回より、“地域がん診療病院”の指定を受けた高島市民病院を新たに加え13病院分を一括して届出し、県内全体で377の医療機関が連携先として登録された。

医療圏別に届出医療機関におけるパス使用割合では、湖南・湖北圏が高い割合を示しているが、特に湖北圏では、パス使用の施設数が届出施設数を超えていた。これは、届出を行っていない施設がパスを使っているためである。

5. PDCA サイクルについて

◎胃がん、大腸がんにおけるパス適用率【資料3参照】

滋賀県がん診療連携協議会に“部会における数値化できる指標”として、当部会は「地域連携パスの適応率」を指標としている。

前回部会にて2012年のがん登録データを用いて“胃がん”、“大腸がん”のStage I・II症例における地域連携パス適用率を算出し提示したが、手術の有無、種類にかかわらずStage I・II症例すべてを対象としていたため、正確なパス適応率が出ていなかった。今回は、現時点で最新である2013年のデータを用い、対象症例もパス適用基準に合わせた。

胃がん（早期）パスでは、長浜赤十字病院が非常に高い適応率であり、大腸がん（早期）パスでは、滋賀医大、長浜赤十字病院が高い適応率であった。しかし、0%の適応率である施設もあり、当部会での目標値としては30%を目指すこととなった。

6. その他

◎県より報告【別紙資料参照】

「平成 27 年度 県のがん対策の概要」、「NPO 法人 淡海かいつぶりセンター」、「滋賀がん・生殖医療ネットワーク」について報告があった。

「滋賀がん・生殖医療ネットワーク」にて登録妊孕性温存施設に開業医が登録されているが、災害などの停電時にしっかりと対応可能であるか確認するよう部会員より依頼があった。

(→ 部会后、“保存するための液体窒素は 1 週間毎に補完”、“トラブルがあっても 2～3 週間は保てる”との返答が県よりあった。)

◎がん患者連絡協議会より報告【別紙チラシ参照】

7 月 12 日(日)に開催予定の『患者のための滋賀県乳がん総会』について案内された。

滋賀県では初の開催であり、県内医療機関からも乳がんに関する医師が多数参加されるので、当部会からも参加の依頼があった。

以上